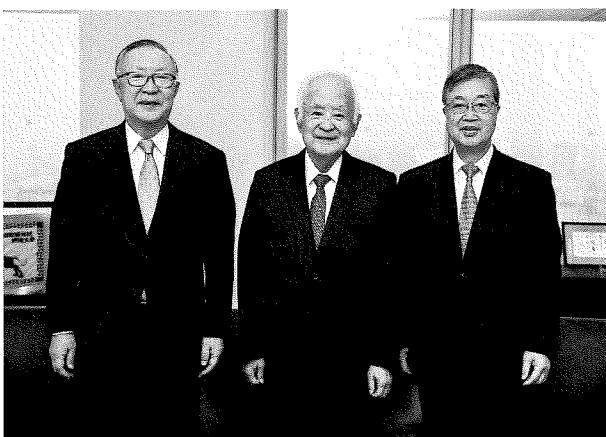


# 青春座談会

埼玉県内でも進学校として知られ、未だに公立高校でありながら男子校でもある“県北の雄”と称される県立熊谷高校。下駄で通学するバンカラな生徒だけでなく、個性的な教師も数多くいた。また、同級生や先輩・後輩、OBと現役同士のつながりも深い。東日本旅客鉄道（JR東日本）顧問の大塚陸毅氏、ライオン特別顧問の藤重貞慶氏、医療科学研究所理事長の江利川毅氏が“クマコウ”生時代の記憶と思い出に残るエピソードを披露した。



**埼玉県立熊谷高等学校**  
1895年(明治28年)に旧制中学として創立。以来、3万余の卒業生が日本をはじめ、世界を舞台に活躍している。1948年の学制改革により埼玉県立熊谷高等学校と改称する。生徒定員は1050名。全日制は開学以来、男子校で、私服での登校が認められている。2010年度より埼玉県教育委員会の進学指導重点推進校、11年度にはスーパー・サイエンス・ハイスクールの指定を受けた。16年度入学生より単位制となっている。「質実剛健」「文武両道」「自由と自治」が校訓・校風。「熊森づくりの会」「東京熊高会」など同窓会も盛んだ。

**生徒だけでなく先生も自由闊達** 下の66年卒業なのですが、1クラス当たりの人数がさらに増えて53人でした。 — 男子校の先生は鉄拳ありの先生が多そうですが、**大塚** 今では許されないことです。ですが、鉄拳も別に珍しいことではありませんでしたね。わたしは水泳が苦手で、体育の授業で泳げない人だけ残されて特訓を受けてきました。10人くらいいたと思いますが、片道25㍍のプールを往復できるまでやられました。

**生徒だけでなく先生も自由闇で** 一 男子校の先生は鉄拳ありの先生が多そうですが。 大塚 今では許されないことが、鉄拳も別に珍しいことではありませんでしたね。わたしは水泳が苦手で、体育の授業で泳げない人だけ残されて特訓を受けさせられました。10人くらいいたと思いますが、片道25往復を往復できるまでやらされました。

しろ」と言われました。先生方は皆さん自由闊達な感じの方が多かったです。10代の若い頃に戦争を経験していた世代ですから。でも生徒に対しては厳しさと同時に「伸び伸びとやれ」という雰囲気で接していました。

シベリア帰りの音楽の先生が印象的で、「歌なんか下手でもいいから思い切り声を出して歌いなさい」と言つていました。そして、実際にそういう生徒を評価していました。それから高校1年生のときの国語の担当が渡辺修一郎という先生でした。

最初はわたしも泳げないものですから、時々、底に足が着いてしまうわけです。でも、そこで知らん顔をして、ごまかすままにすると、プールの水面から頭を出したところで先生からスパンッと竹刀で頭を叩かれました。どうやら先生もしつかり見ていたんですね（笑）。お陰で泳げるようになりました。

**藤重** 山浦直心先生ですかね。わたしもよく「姿勢を良く

しろ」と言われました。先生方は皆さん自由闊達な感じの方が多かったです。10代の若い頃に戦争を経験していた世代ですから。でも生徒に対しては厳しさと同時に「伸び伸びとやれ」という雰囲気で接していました。

シベリア帰りの音楽の先生が印象的で、「歌なんか下手でもいいから思い切り声を出して歌いなさい」と言っていました。そして、実際にそういう生徒を評価していました。それから高校1年生のときの国語の担当が渡辺修一郎という先生でした。

渡辺先生はその後、埼玉県立本庄北高校や埼玉県立浦和高校の校長、次に埼玉県教育委員会の委員長を務め、今は安岡正篤記念館の月例の漢詩講座「白楽天詩集」や湯島聖堂内の月例講座「和漢朗詠集の白楽天の詩」の講座で講師を務めています。80歳を超えても精力的です。

**江利川** わたしのクラス担任の先生はお坊さんで国語の先生でした。授業中によく居眠りをされていました(笑)。先生に教

## 県) の良さと伝統

# らかな先生が多かった学園生活

# 東日本旅客鉄道顧問 大塚 陸毅

ライオン特別顧問 藤重 貞慶  
Fujishige Sadayoshi

医療科学研究所理事長 江利川 肇  
Erikawa Takechi

EIKAWA Takeshi

司会：本誌主幹　村田 博文

昔から県立男子校を堅持

**昔から県立男子校を堅持** 埼玉県立熊谷高校は昭治28年（1895年）に第二尋常中学校として創立された男子校です。まずはJR東日本顧問の大塚陸毅さんから見た熊谷高校の校風を聞かせてください。

**大塚**わたしは1961年の卒業ですが、当時から熊谷高校は男子校でした。そして未だに公立高校でありながら男子高を頑なに守っています（笑）。

かつて地元のPTAの方が垂られて、熊谷高校もいよいよ男女共学にした方が良いのではないかという話をされたのですが、わざわざ共学にする必要もないといった意見もありして一概には決められませがんでしたね。

進学率が心配なので共学にした方がメリットは大きいといふ意見もあつたようですが、灘高校や開成高校なども男子校。それでも進学率は高い。むしろ高校で何を学び、高校を卒業して社会で活躍したときに、熊高

の卒業生で良かったねと言つてもらえることが大事ではないかと。先生や学友同士の結びつきあるいは先輩・後輩の結びつきが大事ではないかと思います。

その点、わたしは熊高で学べて本当に良かった。実は小学校6年生の2学期まで大宮にいた父のですが、教師をしていた父の仕事の関係で熊谷に引っ越しました。父の転勤がなければなんでもなしの熊高生活はありませんでした。最近も久しぶりに同級生と集まつてお酒を酌み交わしましたよ。

—— 今でも同級生の結びつきが強いのですね。ライオン特別顧問の藤重貞慶さんとつづの熊高とはどんな学校でしたか

**藤重** 65年卒業のわたしの世代は戦後のベビーブーム。1クラスに生徒が50人くらいいて1学年は10クラスありました。合計500人ほどの同級生がいたことになりますので賑やかでした。思い出深いのは裸足に下駄履きで通つてくる生徒が多かつたことです。わたしは本庄市か

熊高生は裸足でした（笑）。  
本庄から電車で約30分、熊谷駅から徒歩で25分ほど。冬でも裸足で下駄履きでしたね。かまやつひろしさんの『我が良き友よ』という歌がありましたが、その歌詞に出てくる「下駄を鳴らして奴が来る 腰に手ぬぐいぶらさげて」という風貌そのものの。水泳も六尺の赤いふんどしでした。これも伝統です。  
—— バンカラな校風だったのですね。医療科学研究所理事長の江利川毅さんは、どこから通学していたのですか。  
**江利川** 行田市駅から秩父鉄道で熊谷駅まで10分。自宅から学校まで50分くらいでした。行田市には普通科の男子校がなく、熊高か、隣の加須市にある不動岡高校に行っていました。  
熊高の校舎に初めて入ったときは驚きました。とにかく床が汚い（笑）。上履きに履き替えるのですが、下履きでも構わないのではないかという状態でした。わたしは藤重さんの1学年

熊高生は裸足でした（笑）。本庄から電車で約30分、熊谷駅から徒歩で25分ほど。冬でも裸足で下駄履きでしたね。かまやつひろしさんの『我が良き友よ』という歌がありましたが、その歌詞に出てくる「下駄を鳴らして奴が来る 腰に手ぬぐいぶらさげ」という風貌そのものの水泳も六尺の赤いふんどでした。これも伝統です。

——パンカラな校風だったのですね。医療科学研究所理事長の江利川毅さんは、どこから通学していたのですか。

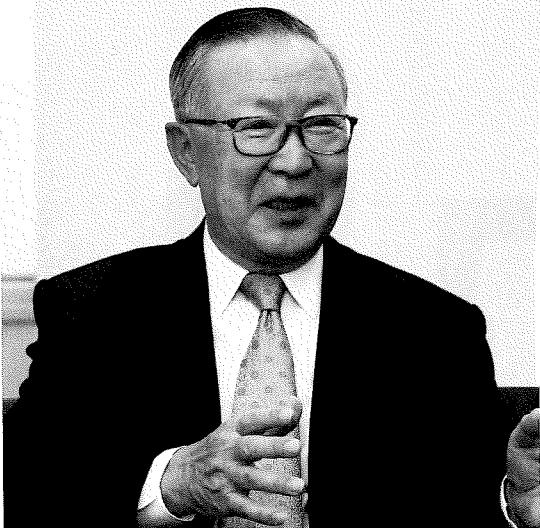
**江利川** 行田市駅から秩父鉄道で熊谷駅まで10分。自宅から学校まで50分くらいでした。行田市には普通科の男子校がなく、熊高か、隣の加須市にある不動岡高校に行っていました。

熊高の校舎に初めて入ったときは驚きました。とにかく床が汚い（笑）。上履きに履き替えるのですが、下履きでも構わないのではないかという雰囲気で接していました。

シベリア帰りの音楽の先生が印象的で、「歌なんか下手でもいいから思い切り声を出して歌いなさい」と言つていました。そして、実際にそういう生徒を評価していました。それから高校1年生のときの国語の担当が渡辺修一郎という先生でした。

渡辺先生はその後、埼玉県立本庄北高校や埼玉県立浦和高校の校長、次に埼玉県教育委員会の委員長を務め、今は安岡正篤記念館の月例の漢詩講座「白楽天詩集」や湯島聖堂内の月例講座「和漢朗詠集の白楽天の詩」の講座で講師を務めています。80歳を超えて精力的です。

**江利川** わたしのクラス担任の先生はお坊さんで国語の先生でした。授業中によく居眠りをされていました（笑）。先生に教



ふじしげ・さだよし

1947年埼玉県生まれ。69年慶應義塾大学商学部卒業後、ライオン油脂(現ライオン)入社。営業を皮切りに、マーケティング、商品企画、国際事業などを担当。2000年常務、02年専務、04年社長、12年会長、16年相談役などを経て、21年より現職。日本卓球協会会長(14年から22年)。現在はACジャパン理事長を務める。

生の集まりがあり、そこに地元の「八木橋」というデパートの創業家の息子さんも来ていて彼から相談を受けたのです。そこでできることはいかと考えて始めたのが、卒業生を中心とした「熊谷高校を応援する有志の会」です。寄付金を集め学校側と協力し、河合塾と提携して予備校の講師に来ていただき、難関大学受験のための「紫雲塾講座」を実施しました。少しは成績も上がりましたね。OBとの縊も強いので

子高校はどんな存在でしたか。  
**大塚** 場所も離れていましたので、わたしの時代にはあまり交流はありませんでしたね。こつそり交流していた人はたくさんいたようですが(笑)。

**藤重** 熊女の文化祭がつて、そこに行くのが楽しみでしたよ(笑)。それから、わたしの友だちが面白いことを言つていました。彼は自宅から熊高まで自転車で通っていました。その通学途中に熊女のグラウンド

があつて、テニス部の部員が練習をしていました。自転車をこぎながら彼女たちの練習風景をチラッと横目で見ながら、あまり見てはいけないと、ひたすら全速力でそのグラウンドの脇の道を通り過ぎようとして、道の脇に立っていた電柱に激突したそうです。それが男子校というのは純粹で真面目なんですね。

**江利川** わたしは熊高時代が人生の分岐点で、真剣に自分の進路を考えました。子どもの頃に人工衛星が打ち上げられ、宇宙や天文に関心を持つて、天文学者になろうと思つていました。高校2年生のときに第1回の東京オリンピックが行われました。

## 友人の死で弔辞を読む

—— 1964年でしたね。

**江利川** 新幹線や高速道路ができ、戦後の荒廃から復興した日本の姿を世界に示すと、官民挙げて取り組みました。オリンピックが終わったら不況になり、その煽りを受けて同級生の家が

倒産し、彼は進学を諦めました。それはおかしい。国の音頭に従つて民間も一生懸命やつたのに、終わつたら民間がバタバタ倒れる。それに手を差し伸べない國の姿勢は許されないと。文学の世界ではなく、社会と関わりのある仕事をしようと、法学部に進むことにしました。

**大塚** わたしも忘れられない出来事があります。高校3年の1960年のこと。大学受験に向けた受験勉強の最中、模擬試験を受けに行つたのです。友だち数人と一緒に東京にまで出て行き試験を受けました。

その帰路、わたしは途中で別車と接触し、亡くなってしまった。友人を代表してわたし

が弔辞を読むことになりました。生まられて初めての弔辞が中学校も一緒だった同級生の弔辞となるとは夢にも思いませんでした。



おおつか・むつたけ

1943年中国北京生まれ。3歳のときに日本に帰国。65年東京大学法学部卒業後、日本国有鉄道入社。87年分割民営化により東日本旅客鉄道入社。財務部長。90年取締役、92年常務、97年副社長、2000年社長、06年会長、12年相談役などを経て、20年より現職。11年より15年まで日本経済団体連合会副会長。16年より20年まで東京大学校友会会长。

姿勢を教えてもらったと思つてあります。

**藤重** 自由闊達な校風で生徒も伸び伸びと過ごしていましたが、先生も伸び伸びしていましたね。高校生という時代は青春時代の真っ只中で、人間形成という点では素晴らしい先生が多かったという感じがします。

**江利川** 授業も大らかで、日は県北に位置し、利根川を挟んで隣はすぐに群馬県ですね。群馬県からも進学していたとか。

**大塚**ええ。人数はそう多くはありませんでしたが、いましにOBは実際に多士済々で、俳人の金子兜太さんや元ラグビー日本代表監督の宿澤広朗さんなどがいます。熊高はラグビーも強かつたのですが、野球でも甲子園に出場したことがあります。1951年の甲子園で決勝戦まで進んだことがありました。

**藤重** 確か準優勝でしたね。

**大塚** そうです。決勝の相手が京都の強豪・平安高校。当時、わたしは大宮に住んでいてラジオで試合の模様を聞いていました。父が「もし優勝したら熊谷で優勝パレードがあるらしいから連れて行つてやる」と。

**江利川** ある程度、生徒の自主性に任せる教育方針だったと。

**大塚** そうですね。ただ、2008年頃でしょうか、熊高の学業の成績が落ち込んだ時期がありました。父が「もし優勝したらあり、地元や卒業生たちから「何か盛り立てたい」といった声が高まつていきました。偶然、わたしが熊谷に行つたときに同窓会で現代史を学ばない。同窓会のときに先生に「歴史の授業は宿題でした。古い時代を学ぶだけ現代史を学ばない。同窓会のときに先生に「歴史の授業は

時代の真っ只中で、人間形成という点では素晴らしい先生が多かったという感じがします。

**江利川** 授業も大らかで、日本史や世界史は、400頁くらいいの教科書を授業でやつたのは半分、残りは夏休みや冬休みの宿題でした。古い時代を学ぶだけ現代史を学ばない。同窓会のときに先生に「歴史の授業は

藤重　はい（笑）。その頃、日本企業でマーケティングが結構盛んだったのが日用品のライオン油脂（現ライオン）でした。この会社でマーケティングを実践するのもいいなと思いました。

—— オン油脂（現ライオン）でした。この会社でマーケティングを実践するのもいいなと思いました。—— 国の在り方を考える仕

**誰かの役に立つ**という思いを  
—— それでは最後に若者への  
メッセージをお願いします。

誰かの役に立つという思いを

で公害問題が社会問題化していくました。しかも公害問題への対応はとても不十分だと感じていました。熊高時代に社会の役に立ちたいと思って法学部を選んだ、その初心に立ち返って、厚生省（当時）の公害部で、公害対策をしつかり進めたいと思つて、入省を決めました。

事に就きたいと話した江利川さんは東大に進みましたね。

A black and white photograph of a stage performance. A large banner with stylized Chinese characters hangs from the ceiling. A person stands on stage, and an audience is visible in the foreground.

非常に複雑になつていくと思ひます。今の混迷状況はどこから生まれて来たのか。戦後も知つてもらいながら、学んでいって欲しい。そして皆さんがやつてゐることが、いずれは誰かの役に立つという思いを持ちながら、努力を重ねて欲しいと期待しているところです。

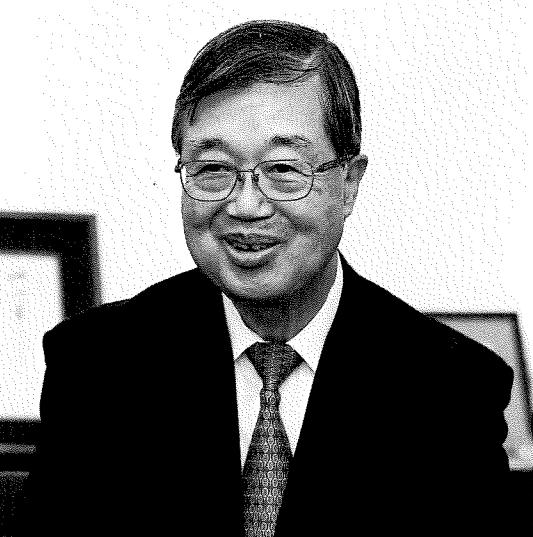
**藤重** 一歩踏み出す勇気を持つと。今の若い人は非常に感性豊かで、感受性が高く、共感性も高いと思うのですが、その共感を行動に移すところが弱い。

**江利川** 私は「忠恕」という言葉が好きなのですが、まず人間性豊かな人になつて欲しいですね。それから、海外生活は当たり前の時代になつていて、日本人の海外留学は減っています。歴史を学ぶという縦の視点と、世界を知るという横の視点を身につけて、世界に羽ばたいてもらいたいと思います。

—— 素晴らしい話をありがとうございました。

文化祭で団旗を翻しながら男子校ならではの迫力を見せる「応援団」(上)と臨海学校での遠泳(下)の様子

75 財界 2024.2.14



えりかわ・たけし  
1947年埼玉県生まれ。70年東京大学法学部卒業後、厚生省(現厚生労働省)に入省。中曾根・竹下内閣、橋本・小渕・森内閣のときに、総理官邸に勤務。2004年内閣府事務次官。07年厚生労働事務次官。09年人事院総裁。14年より18年まで公立大学法人埼玉県立大学理事長。12年より公財財团法人医療科学研究所理事長。

活動は珍しいと思います。

**大塚** わたしは東京大学に進  
（つづく）

た。他の友人や中学時代の同級生も呼んで、彼にまつわる思い出やエピソードを話してもらいました。青春真っ只中の非常に感性豊かなときでしたから非常に辛かつたことを覚えています。  
—— 多感な時期に友人の死に直面したのですね。友人同士の結びつきの強さを感じます。

江利川 結びつきという観点では、先ほど大塚さんが同窓会のお話をされましたが、ここにいる3人は「東京熊高会」という東京で定期的に行っている熊

OBと現役で木を植える会

—— その会は、どういった活動をやっているのですか。

**江利川** 埼玉県長瀬町の宝登山の中腹の土地を借りて植樹活動を行っています。毎年10月下旬の日曜日に現役の高校生が約30人とOB約80人が集まって植樹し、育っている木の周りの雑草を刈る。現役も一緒に同窓会

## OBと現役で木を植える会

れるでしょう。OBの中には労を厭わず活動してくれる人が結構いる。誇れる集まりです。  
**藤重** 熊高のイメージとしては、城山三郎さんが著書で国鉄総裁を務めた石田禮助さんを「粗にして野だが卑ではない」と著しましたが、その言葉がピッタリですね。何に対しても、誰が相手であろうと、全力で立ち向かい、堂々とした姿勢で臨むという姿勢ですね。

—— それぞれ高い志の下、

す。この寮は篤志家（ボランティア）が運営していたもので全ての面倒を見ててくれていました。  
—— 家賃はどれくらい？  
**大塚** いえ、家賃はゼロ円です。しかも3食付き。授業料も全て育英会が負担してくれました。非常にお世話になりました。寮の創設者は「もしやりがたいという感謝の気持ちがあったら、それは全て社会に返しなさい」と言つっていました。

わたしがいた同じ時期には先輩でNTTドコモ社長や宇宙航

活動は珍しいと思います。

熊高O Bは埼玉県庁にも多く  
いて何かと支えてくれます。長  
瀬町の協力も得て、植樹活動が  
行われています。もう20年で  
す。初代会長が先ほど大塚さん  
が紹介された八木橋さんで  
す。桜は30種類以上、紅葉やつ  
じなど計1500本以上植え  
ました。

現役の高校生が植樹してO B  
が育樹に汗を流しています。植  
樹をした生徒は、社会人になつ

**大塚**わたしは東京大学に進学しましたが、東大時代は特別なことをやっていたわけではありません。勉強もそんなに真面目にやっていたわけではありませんから（笑）。ただ、寮に住んでいたことは大きかったですね。

東京・板橋にあつた、ある育英会が運営していた寮で、約30人の寮生がいたのですが、いろいろな大学の学生が入つていて、から面白かったですね。ですから、学生時代もほとんど寮の中